

優良工事事例を表彰

土木に県産材活用

長野県産材対策協

長野県産材振興対策協議会(宮崎正毅会長)は、このほど、2016年度木材利用工法の優良工事事例コンテストの表彰式を開いた。これに併せて木材の動向等に関する研修会も行われた。

信州カラ松で知られる同県は、県産材の製品出荷で土木建築向けの割合が高く、公共土木工事等で県産材の積極的な利用に取り組んでいる。優良工事事例を表彰することで、土木分野での木材利用の促進を図るのが狙いだ。7回目となる今回は18点の応募があり、審査の結果、8点が入賞した。

豪雨災害で発生した推定5000立方メートルの倒木・流木を単に廃棄物として処分するのではなく、可能な限り資源として工事材料に有効活用した。通直材や大径材は比較的扱いやすいため、丸太筋工、丸



中部山岳国立公園内に施工された県産材の木道

太水路工の横木材料とした。曲がり材や小径材は打ち込みやすさから、杭木材料とした。土砂混じりの流木・根材は、現地で産業廃棄物発生させないよう資材はあらかじめ加工し、部材規格も輸送しやすいように工夫した。このほか、木製天端保護工、木製校倉式土留め工、県下初の県産材認証型枠合板を使用した型枠工などが受賞した。

・枝条は、現地に大型移動式破砕機を導入し2〜3センチのチップに破砕し、堆肥化して吹き付け基盤材とした。中部森林管理局長賞は、長野自然環境事務所の木道工、木製勾配階段工とベンチが受賞した。施工箇所は中部山岳国立公園内で、来訪者の安全確保や高山植物保護を目的に歩道整備を実施した。材料はそれぞれ講演した。

研修会では、兼松サステックの今野雄太氏が木材の有効活用を図る環境パイル工法について、県林業総合センターの市村敏文氏が信州カラ松の現状と将来に向けた戦略について